と金クラブ将棋教室・7月号会報

ホームページは、と金クラブ将棋教室で ⇨ 検索　　H26．7．12　第134号　編集責任者　後藤克義

夏の風物詩の一つでもある風鈴。あの優しい音は涼を誘うだけでなく、心を穏やかにしてくれる気もします。お寺の四隅に吊り下げられている「風鐸（ふうたく）」からきているもののようで、昔は音の鳴り方で吉凶を占ったり、魔除けとして使われていたそうですよ。

本日より　文化庁　伝統文化親子教室事業の「と金親子将棋教室」を兼ねて開催致します。

棋譜（きふ）の読み方（棋譜は駒の住所です）（プロ棋士同士の対局で目かくし将棋にも使います）

図面には、縦と横に数字が入っています。

縦を段（だん）、横を筋（すじ）と言い、段には、一、二、三・・・と言う漢数字が、筋には、１、２、３・・・と言うように数字が右から付けられていますね。棋譜は、この二つの数字を使い、すべての駒の動きを表して行きます。

たとえば、この最初の局面から、２七にある飛車の歩を一つ上げると、「２六歩」と言う風になります。

図面は、先手が手前に、後手が向こう側に表示され、先手は「▲」で後手は「△」で表されるので、先手が２七の歩を一つ上げると、▲２六歩となり、後手が、３三の歩を一つ上げると、△３四歩となります。なお、この記号は、便宜上使っているもので、正式には、駒の形をしているものを使う場合が多いです。黒が先手、白が後手と覚えて下さい。

駒が重複して動ける場合に特殊な表記をすることがありますので、以下その説明です。

「直」（すぐ）・・・金銀と成駒（成桂・成香・と金）がまっすぐ上がる場合に使われる。

「寄」（よる）・・・金、成駒や飛車が一つ左右に動く場合に使われる。

「引」（ひく）・・・大駒が後方へ下がる場合、及び金銀、成駒が下がる時に使われる。

「上」（あがる）・・・金銀と成駒が上がる時使われる。

手損（てぞん）について。（相手駒が玉に迫ってくるのに、対応しないで他の意味のない手を指す）

将棋は指す手によって手損（てぞん）と手得（てどく）があります。

手損は自分の手番を損する事で、自分が手損する手を指したら相対的に相手は手得します。

角交換すると、相手の銀が上に上がっていることに気が付きませんか。 それに対して、こっちは上がっていないから「一手損」と言うのです。

でも最近は「一手損角がわり」というのがでてきたので結構いけるそうです。

先に攻めたほうが、有利な戦法の場合は、１手得をして先に攻めることができると、大きな得です。

また、序盤の駒組みで１手遅いと不利な形になってしまうことがよくあります。そういうときにも、１手損は痛いです。しかし、振り飛車、居飛車の対抗形の場合は、あまり大きな差にならないことが多いです。

中終盤は、１手損は明らかに損です。局面によっては致命的なことがよくあります。

6月開催の昇級・新入会者

6月7日開催分、昇級者　野村櫂君6級昇、三浦光葵君7級昇・上級Bへ

新入会者　木村心春さん・大橋総司郎君・大橋乃彩さん・星野大智君以上ニュークラスへ。

6月21日開催分、森田瑛君・初段昇、野中僚君・8級昇、

新入会者、伊藤克君中級Aクラスへ、川口雄正君ニュークラスへ、

他の将棋大会（以下の詳細問合わせは、電話 052-253-9441 へ）

1、7月29日(火)～8月1日(金) 名古屋市小学生夏休み将棋講座

2、8月3日(日) 第14回よいこチビッコ蒲郡将棋名人戦

8月の開催日　愛知東邦大学・学生食堂・PM1:30～4:20

8月2日（第1土曜日）・8月23日（第4土曜日）